

2010年度 日本動物行動学会賞 受賞者（2010年 11月 21日 受賞）

区分（1）動物の行動に関する新たな現象の発見

田中 啓太氏 「（表題）」

受賞理由

田中啓太氏の研究は、ジュウイチのヒナが翼角を使って口に擬態する行動を発見し、その機能などを明らかにしたもので、托卵のみならず擬態や操作といった一般的な観点で見て新しい成果と言えるものです。行動としての新しさも申し分ないと考えられます。研究内容は**Science**などに発表されています。

区分（2）動物の行動に関する新たな理論の構築あるいは既存の理論の発展

辻 和希氏 「生活史戦略の観点から血縁選択理論の未解決問題を解く」

受賞理由

辻和希氏の研究は、社会性昆虫を主な対象として、生活史戦略の観点を導入して社会行動などの性質の進化を検討したもので、血縁度やB,Cというパラメーターだけでは理解できない、新しい面を開いたもので、社会性昆虫に限らない一般的な意味を持つと思われます。研究成果は、**Behavioral Ecology and Sociobiology**などに発表されています。

注）業績の表題について

2013年度以前の日本動物行動学会賞では「業績内容をあらわす表題」の記載・申告が応募時に求められていませんでした。この度の公開（2016年2月）にあわせて、2010-2012年の行動学会賞については、受賞者ご本人にあらためて表題をつけていただきました。